

「カノープスに挑む(8)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私はしし座の左側(北側)に見える、星団のような星の並びが気になったが、その場では何だかわからなかった。下写真の○のあたりである。



これは「かみのけ座」という星座である。星座そのものが「Mel111」という散開星団アで形成され、普通の星座のような「星座線」で結ぶことはしない。

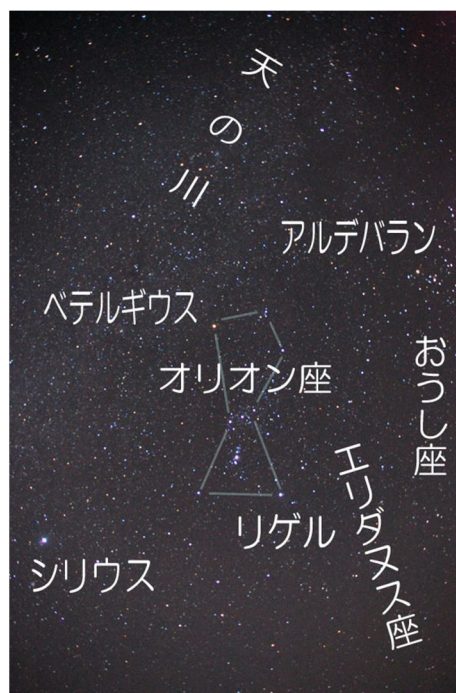


我々の住む太陽系がある銀河系は、地球から見ると「内側から」見ていることになる。その銀河(天の川)の中心線を基準とした座標を「銀河座標系」という。「緯度・経度」のように「銀緯・銀経」で座標を特定する。天の川に近いところが「銀緯 0° 」、一番遠いところが「銀緯 90° 」で「銀河北極」「銀河南極」と呼

ばれる。その銀河北極が、このかみのけ座にある。銀河(天の川)から最も遠いので、星間物質や塵が少なく、銀河系の外側にある銀河団を見ることができる。かみのけ座は、「宇宙の窓」と言えるだろう。



逆に天頂付近を見ると、オリオン座の左上に天の川が横たわっている。かみのけ座と正反対で「銀緯 0° 」付近で、銀河系内の恒星が一番密集している空域だ。



オリオン座は常に観望や撮影の対象になる星座だが、何度見ても美しい。都会の明るい空で見るとちがって、本当に6等星まで見える。オリオン座の写真最後に、この日は帰ることにした。